

青梅のにじ

〈発行〉

日本基督教団 隠退教職ホーム
にじのいえ信愛荘
運営委員会 須藤 繁

〒198-0052 東京都青梅市長洲2-687
電話：0428-22-2283 FAX：0428-22-2317
Eメール：nijinoiesinaiso@wish.ocn.ne.jp

振替口座番号 00120-3-358467

加入者名：にじのいえ信愛荘

隠退教師とご遺族の方々に感謝して

隠退教師を支える運動 推進委員長 鈴木 秀信



わたしはあなたたちを造った。
わたしが担い、背負い、救い出
す。

イザヤ書46章4節

復活の主の聖名を賛美いたし
ます。在荘の皆様方におかれま
しては、主にある平安な日々を
お過ごしのことと拝察いたしま
す。この度、池田浩二委員長の
ご高齢による退任の後を引き継
ぎまして、本年4月より重責を
担わせて頂くこととなりました。
私がこの運動に関わらせて頂き
ましたのは、「にじのいえ信愛荘
運営委員会」の朝岡瑞子姉から
のお誘いが始まりでした。20
07年6月開催の「隠退教師を
支える運動全教区推進協議会」
に出席して、全教区から集った

推進委員の方々の篤い祈りと熱
気溢れる話し合いに圧倒された
のを忘れることができません。
それは、この運動が隠退された
先生方とご遺族に対する全教区
信徒の、主にある感謝と厚い信
頼関係で結ばれ、この運動をよ
り多くの教会・伝道所の方々に
ご理解、ご協力をお願いするた
めの話し合いであったからです。
この運動が大切にしておりま
す「私たちのビジョン」の一節
に、次のような項目が掲げられ
ております。
「私たちは、それぞれの教師が
長年にわたり伝道と牧会に全生
涯を捧げられ隠退されてからの
生活を少しでもお支えしたいと
念願しております。このことは、
私たち信徒の祈りであり責任で
あると自覚しております。」
まさにこの信徒の願いが、祈
りと献金活動となって今日まで
受け継がれていると思っております。

お捧げ頂いた献金は教団年金
制度をお支えし、また様々な理
由からこの制度に加入されずに
隠退された先生方、ご遺族（配
偶者）に対するクリスマス祝い
金を贈呈して、ご降誕の喜びを
共に致しております。長く据え
置かれておりましたクリスマス
祝い金は、2022年度より1
万円増額することといたしました。
なお、御荘に対してささや
かではありますがお捧げ
させていただいております。

一方でこの運動は隠退された
先生方とご遺族の老後の配慮に
留まらず、現役の先生方が老後
を心配されることなく、安心し
て伝道、牧会に励んでいただけ
る、その様な環境を整える役割
の一助としても仕えて参りたい
と祈っております。

この信徒運動が主のお支えの
下で継続し、全教会、伝道所が
参加して頂くことが願いであり
ます。しかし、高齢化による運
動継承の人材育成に苦慮してお
ります。お祈りのうちにお支え
ください。皆様の平安をお祈り
致します。

（東京教区・船橋教会員）

光あれ 創世記1章1〜5節

隠退教師 小泉 富子



創世記1〜11章までが旧約聖書の一番最初の重要な部分です。新約聖書を理解するのに、重要な部分です。

創世記の1〜11章には二つの資料が用いられていることが分かります。1章と2章に2度天地創造の記事があり、人間の誕生の物語が記されていますが、1章の方では、「神」と訳されていて、2章では「主なる神」と訳されていますが、神は「ヤハウエ」と呼んでいるので、この資料をヤハウエ資料・頭文字からJ資料。

1章の方は祭司資料・頭文字からP資料と言います。J資料の方が時代的には古く、紀元前10世紀頃統一王国時代ソロモン王の時代に書かれたと言われています。P資料は紀元前5世紀頃バビロン捕囚からエルサレム帰還後に、祭司の間で伝えられていたものをまとめて書かれたと言われています。

2章の方は物語的な記事ですが、1章は「これは一種の教え

だ」と言われ、また「創世記の中で一番考え抜かれた箇所だ」と言われています。聖書は古いものから年代順に並べたのではなく、内容的に編集されています。時代的に古いJ資料が先に来るのではなく、新しいP資料が冒頭に置かれて、今日の創世記が出来上がっているのです。

創世記の冒頭の言葉であり、聖書そのものの冒頭の言葉は、〈はじめに神は天と地とを創造された〉と記されています。

創造されたのは神なのだ、と告げられています。1章1節の言葉は、旧約聖書の中では讚美の歌につながるものなのです。創造者なる神を讚美すること、告白すること、ここに信仰の根本があり、出発点があるのです。旧約聖書の多くの部分は、エジプトから救済されたことから始まって、イスラエル民族が救いを体験することで占められています。先立つ創造ということも大切な問題であるのです。

わたしたちは、神に造られた被造物です。

はじめとは一体どういうことでしょうか。この世には、はじめがあり、終わりがあり、それを支配される神がおられます。けれども人間は中間にしかいられないので、はじめとか終わりが解りません。それで円環的にものを考えます。人間の時間の捉え方は、自分がいつでも始めにあり、その自分を中心としてすべてをとらえることになりません。故に、自分を絶対に越えた始めがあつたのだということは承服できず、創造など単なるお話しとして片付けようとするのです。

はじめにかみてんちをつくりたまへ
〈元始に神天地を創造り給へり〉(文語訳)という、1章1節の神はそのような人間の処理の対象となる神ではありません。初めに神がおられ、終わりの神がおられるのです。その永遠の神が、世界の創造を決意されるのです。神は第一に自ら働かれる御方として、恵みの主として、讚美される方として存在しています。創世記を貫き、聖書全体を覆う神讚美の告白が1章1節の根本にある信仰です。

神が造られた天地は、明確で秩序だったものであることを、わたしたちは想像しますが、2節では混沌の中にあると書かれております。〈地は形なく、むなしく、やみが淵のおもてにあり〉。

〈地は混沌としていた〉はこの箇所その他エレミヤ書4章23節にだけ出てくる言葉です。混沌とは「空しい、無意味」を表しており、P資料における創造が「混沌から秩序へ」の方向であることを示しています。イスラエルの長い歴史を顧みて、バビロン捕囚の現実に向き合った民は、神なくしてはすべて余りに空しいという場に立たせられているのです。同じことが創られた人間一人ひとりについても語られています。創造の業、神の意思は混沌と深淵の上で絶えず被造物を支えます。〈神の霊が水のおもてをおおっていた〉は、神の創造の働きが、被造物を神讚美へとむかわされるように働いていることを言い表しております。〈おおっていた〉という言葉は「振動する」「活動する」という意味で、このことがすでに時代を越えてこの世に及んでいたこと

を、ヨルダン川でのイエスの受洗の時や、五旬節の出来事が新しい創造の開始を告示しています。

神が初めに造られたものは、「光」だったというのです。〈神は「光あれ」と言われた。すると光があった。神はその光を見て、良しとされた〉。神が最初に造られた光は太陽の光でも、月の光でもなく、光そのものをあらわしておられます。そして、その光は闇の中で輝いているのです。闇は確かにこの世にはあるだろう。しかし、神は光を創造されたではないか、われわれは光を与えられているのではないかというのです。

〈神は言われた〉。活ける唯一の神が言葉を出されました。神は物言わず、沈黙の神であることもできるでしょう。しかし、今、神は沈黙を破り、言葉において被造物と共にあるうとされます。み言葉を語られ、そのみ言葉を守られます。み言葉は目的を達成し、成就するのです。「信仰によって、わたしたちは、この世界が神の言葉で造られたのであり、・・・と悟るのである」とヘブル人への手紙の11章3節

に述べられています。それ故、わたしたちはためらわず、臆せず、代々のキリスト者と共に〈我は天地の創り主、全能の父なる神を信ず〉と告白するのです。

一番はじめに光が創造されたということは、光は人生で一番大事なものであって、その大事なものが神の言葉によって生じたということ。〈光をみて良しとされた〉ということの中に、それが込められています。そして、光がすでにあるのだから、闇の中にあると思われる状況の中にあっても、神が語られ、働きかけていくださることを絶えず覚え、み声を聴いていきたいものです。

神は光を、昼を優位におかれました。そのことが創造の第一日の日月に関する記述のうちに明瞭に述べられています。〈夕となり、また朝となった。第一日である〉。

第二日目に造られたのは「大空」です。その大空の上を天と名付けられました。〈夕べとなり朝となった〉という表現は、ここで6回も繰り返されています。聖書の示す夕から朝へと言う時の理解は、希望に向かって展開

してゆくすばらしい理解です。

しかし、朝の前に夜があること。罪に落ちたイスラエルの歴史、旧約の歴史が、真の朝が来ることをずっと待っていたのです。そして、神の時が満ちて、その待つていた朝が、イエス・キリストの誕生によってもたらされたのです。キリスト誕生の夜は墨を流したような暗黒の支配している時でありました。天の扉が開かれて、目もくらむ程の聖なる光・〈主の栄光〉によって牧人たちは巡りてられ、聖なる畏れに包まれました。まことの光、まことの朝の到来です。

〈神はそのひとり子を賜ったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで、永遠の命を得るためである〉。(ヨハネによる福音書3・16) 創造主なる神のひとり子イエス・キリストは、この世の悩み、苦しみ、病、罪の払う値としての死へ向かう人生に介入されて、その身にすべてを引き受けられました。み子の十字架の死において全き解決をもたらし、いのちに至る道を切り開いてくださり、十字架と復活の力なるみ言葉をもって、今も

語りかけていてくださいます。この道を行きなさい。まことの光として来たり給うたキリストがあなた方と共にい給うのであるから」と。

6月19日 礼拝説教より

口語訳聖書引用

(にじのいえ信愛荘 在荘)



2022年7月25日 在荘の皆様

懇談会

第1部 今の私と 次世代に伝えたいこと



ここにお世話になることになり感謝です。



金子美鈴の「みんな違って、みんないい」という言葉に惹かれ、身近な生活の中で、協力し合って、それを大切に進んでいきたい。

小泉 富子 神の霊と深く結びついていく聖書の行間から、神は何を語りかけておられるかを聞きつつ、一人静かに聖書と向かい合う時を今大切にしています。次世代を生きる人に、人間はあくまで神に創られたものであることを伝えたい。

長山 恒夫 吉祥寺に育ち、その頃から、この地が良いところだと思っていました。80歳を過ぎて、ここへ来たことは子ども頃からの願いが叶い、有り難いことだと思っています。

長山 篤子 住まいの環境が綺麗に整えられている中、日々を大切に感謝して過ごしております。スタッフの毎日の清掃はきめ細かく行き届いて、頭の下がる思いです。あちらこちらに飾られるお花からは潤いと慰めと癒しを戴いています。

伊藤 地塩 今日が誕生日で95歳になりました。奥興先生とご

一緒に、この信愛荘設立に関わってきました。こんなに長く生きるとは思ってもいりませんでした。兄達は戦争で命を落としましたが、弟の家族は現在5代目のクリスチャンです。

篠原 節子 大分を始めに七つの教会を牧会し隠退、2019年に入荘を許されました。この先ずっと夫と共にと思っておりましたが、昨年夫は天に召され寂しくなりました。今は皆さんとご一緒に楽しく過ごさせていただけ感謝しております。

北澤 豊子 2020年の4月に主人を天に送り、10月に入荘を許され、主のお守りの中に過ごさせて頂いています。私の心がけていることは、自分の健康管理と、家族の健康を常に気にかけて、荘の規律を守り、催事に喜んで参加することです。10月に85歳を迎えます。スタッフの皆さんのお支えに感謝しております。



鈴木 正三 55年間、私にとつて重い複雑な仕事を背負ってききましたので、すっかり疲れましました。ここで、のんびりさせて頂いてよい日々を過ごしています。

青梅の朝の小鳥のさえずりは真に素晴らしく、このような所に住まわせて頂くことに感謝しています。

鈴木 信子 入荘して今日で丁度1年目になり、良い環境で良い方々と良いスタッフに囲まれて幸せです。大事にしていることは、よく食べ、よく笑い、そしてそつと静かに祈ること。青梅の高い空、きれいな水、山と緑の自然に囲まれた環境の中にあるこの荘をずっと次の世代にまで引き継いでいただきたいと願っています。



稲垣 善子 6年前に入荘、その後次第に目も耳も衰え、つくづく老人だなあと思いますが、大勢の方に祈られ支えられて感謝して過ごしています。趣味は編物とお野菜を育てることです。

横山 利江 あと半年で入荘7年、人生の最終章を迎え、健康維持を心がけて毎日を大切に過ごしています。コロナの時を一人で過ごしていたなら、孤独で、こんなに和やかに過ごせなかつたらどうと思います。私も皆さんと同じに感謝の日々です。

島澤 弘子 私は弱い人間ですから、一人で聖書を読むことは難しく毎朝の礼拝の有難さは身に染みて深く感謝しております。春原 鈴子 西支区の教会にいましたので、この荘のことは親しく感じておりました。

第2部 も少し話したいこと こころが課題かなと思いつつ

長山(篤) 何故ここに入荘希望者が少なくなってきたかは課題です。入ってこない方々の意見をしっかりと捉えて頂きたい。自分の目で見てもらって、荘を取りまく自然の中から神様による再生を感じていただく、そういう宣伝の仕方もあるのではないのでしょうか。



横山 多くの方々の支援と祈りを戴いているにもかかわらず、何故お部屋が埋まらないのだろうと疑問です。時代が変わってきたからでしょうか。良い意味での改革が必要ではないでしょうか。

鈴木(信) 私は今とても居心地よく過ごしていますが、「隠退して入荘後も、礼拝でお祈りや説教をしなければならぬのに入ら入らない」との声も聞きます。そうした点での改革も必要なのかなと思います。

北澤 以前夫と共に牧師夫人としてやってきましたことや、奏楽なども、今では、難しくなってきました。確かに高齢による体の変化との戦いは、年々厳しくなってきています。

長山(篤) コロナ禍の中で、さらに私たちは年齢的にも外の教会へ行くことが難しくなってきました。教会ではない荘での礼拝を、今後どのように支えてゆくかは大切な課題です。運営委員会も是非一緒に考えていただきたいと思っています。

横山 コロナ禍になって教会その他の方々の訪問がなくなると、交わりをすることが一切なくなると、それが大変寂しいことでした。今日は久しぶりに皆さんと生活に密着したことが話し合えて嬉しいですね。

小泉 コロナ禍で、外出も止められ閉塞感があるけれども、職員が行き届いた配慮と主のお守りで、荘の皆がコロナ禍から守られたことは有難いことでした。

横山 コロナ禍で様々のことがストップしたことは、チャンスでもあったのではないかと。コロナ禍がいつ収束するかは分かりませんが、荘の良いところを引き出して、変えていくチャンスと捉えたい。

鈴木(正) 長い間の牧師生活は重く、すごい体験もさせて頂いた。北朝鮮で深く付き合っ



友人から「もう連絡できない」と1本の電話が入り、その後、彼は殺された。今も各国のキリスト教会の歴史には命の問題があり、そうした歴史を運営委員会も知っていた方がいい。

小泉 ここにいる者は、各教派により異なるが、それぞれに重いものを背負って来ています。沖縄の問題とか、北朝鮮から引き揚げてきたキリスト者で詩人であった人を、国がどう受け容れたかなど、直接に間接に関わってきた、重い問題だと受け止めました。

島澤 私は81歳、この中で3番



目に若い。朝起きてまずオルガンの練習、そしてテレビ体操、散歩、礼拝、食事、その後には買い物にも出かけます。散歩している心と心が洗われるような気

持ちで、自由が与えられていて日々前向きに生きられることに感謝しています。

横山 皆さん年齢も違い、いろいろな体の調子の段階の方々がおられます。15分間の梅っこ体操や折り紙の時間など、幾つかの試みを通して活性化の拠点を持っています。でも参加は基本、自由です。

三浦(生活主任) 私たちスタッフは、出来るだけお一人おひとりに寄り添い、良い方向へ持っていくお手伝いが出来ればと願っています。

伊藤 最後に一言！ 私はスタッフの方から愚痴を聞いたことがありません。



成松(司会) 本日は、こうしてお集まりくださり、貴重なご意見を賜りまして誠にありがとうございます。「主の祈り」を一緒に祈り閉会といたします。

(文責 黒沢咲子)

追悼



柳沼齊子姉
2021年8月16日召天

心より感謝

長女 柳沼救羊子

2016年4月27日、母・柳沼齊子（やぎぬま さいこ）は父・政一（まさいち）と共に入荘させて頂きました。

「一節づつ通読交わす朝に夕
深き恵みと祈きし老二人」

荘での父との信仰の歩みを詠んだ母の短歌です。

4年後の8月末、持病の肺の疾患が悪化。病院への入院や老人保健施設への入所を経て、入荘から丁度5年後の4月27日、父と共に退荘し、「特別養護老人ホーム青梅白寿苑」に入所致しました。8月11日容態が悪化し、日の出が丘病院入院。16日午後9時15分、89歳2か月で肺炎の為に召天致しました。火葬には父も出席し、孫達と一緒に母を見送りました。

「六十年を

ともに過ごししオルガンと別れがたしよ 苦楽知るゆえ」

母と苦楽を共にしたオルガンは、入荘前に私がおります岩手県の千厩教会に運ばれ、今も毎週の礼拝で用いられています。オルガンの所に母の写真をおき一緒に礼拝を守っています。

祖母が母の為に準備した着物は、岩手の知人の協力で、私の洋服等に生まれ変わりました。小物にもリメイクされ、海外で教育を受ける事が困難な子ども達の支援にも用いられています。

最後に、荘員・スタッフ・運営委員会など荘を支える皆様、食事を作って下さる方々、母がお世話になった医療従事者や介護に従事する皆様、理容師さん、静岡・福島から青梅に移った後も母と良き交わりを続けて下さった皆様。そして何より入荘時から召天迄、私の代わりに母のケアをして下さった千厩教会関係者のK姉、私がうまれる前から常に私達家族の事を心にかけて下さっているU氏。コロナ禍で母の晩年を祈り支えて下さった皆様に心より感謝して

（奥羽・千厩教会牧師）

◆自己紹介

私の献身



會澤とき江

私は茨城県水戸市の保守バプテスト教会の出身です。22歳の時扁桃腺の手術がきっかけで主治医のクリスチャンのドクターを通して「聖書は真理の書である」ということを聞き、この入院をきっかけに教会の礼拝に導かれました。教会では当時同じ耳鼻科に入院していた小児がんの女兒（小2）のために祈りがなされており、無事に退院の運びとなつて共に洗礼にあずかりました。

それから8年後、初めての箱根ケズイック・コンベンションの開会礼拝において開口一番「先生がおいでになって、あなたを呼んでおられます」（ヨハネによる福音書11章28節・口語訳）との御言葉が語られ、その言葉は私の全身を圧倒し雷鳴のように射抜いたのです。さらに1年後の箱根ケズイック・コンベン

ションでは、イザヤ書43章7節「神の栄光のためにあなたは創造された」が取り次がれた時に、私たちは主イエス・キリストの十字架と復活の命によって新しく造られた者、神の栄光のために造られた者であるということを知らされ、献身に導かれました。

東京聖書学校を卒業後、四国教区、奥羽教区、九州教区、西中国教区での教会の宣教牧会・伝道に携わることがゆるされました。その働きの核心は主の「あなたはわたしの僕。わたしはあなたの神」である、この神を愛し仕え証しする働きの栄光を身に知ることがゆるされました。4月より隠退教師となり7月より「にじのいえ信愛荘」での新たな歩みを始めさせて頂いておりますが、やはり主のみわざのために仕え証しする歩みに変わりはないことを光榮に思います。





施設長代行 大野 裕昭

●2021年7月
8日(木)スタッフ会

(スタッフのみ)

20日(火)井上医院来診

26日(月)誕生会・相談会

28日(水)苦情処理委員会

●2021年8月
12日(木)スタッフ会

(スタッフのみ)

20日(金)井上医院来診

30日(月)誕生会・相談会

●2021年9月
15日(水)井上医院来診

27日(月)誕生会・相談会

●2021年10月
11日(月)・13日(水)・18日(月)

インフルエンザ予防接種
(井上医院)

15日(金)スチーム暖房切替

20日(水)井上医院来診

23日(土)ボイラー点検

25日(月)誕生会・相談会

27日(水)散策ドライブ(有間ダム)

29日(金)消防検査(ボイラー関係)

●2021年11月
1日(月)現地調整委員書類整理

11日(木)スタッフ会

17日(水)井上医院来診

18日(木)A・B棟エレベーター点検

25日(木)運営委員会

29日(月)誕生会・相談会

●2021年12月
9日(木)スタッフ会

13日(月)相談会

15日(水)井上医院来診

17日(金)青梅幼稚園キャロリング

19日(日)クリスマス礼拝

20日(月)クリスマス祝会

25日(土)クリスマス

●2022年1月
6日(木)クリスマス・リース収納

13日(木)スタッフ会

18日(火)井上医院来診

31日(月)誕生会・相談会

●2022年2月
3日(木)A・B棟浴槽検査

B棟エレベーター点検

5日(土)主日礼拝賛美歌練習

10日(木)スタッフ会

14日(月)池田貞子師(退荘)

15日(火)井上医院(代行)

16日(水)エアコン修理(居室)

17日(木)財務小委員会

(富士見町教会)
22日(火)A棟エレベーター点検、B棟ガス点検

24日(木)運営委員会(書面)

25日(金)漏電検査

●2022年3月
3日(木)オルガン修理

4日(金)シンダーキー交換(居室)

7日(月)コロナワクチン接種

(3回目:ファイザー社)

10日(木)スタッフ会

28日(月)誕生会・相談会

●2022年4月
5・6日(火)・(水)花見(釜ヶ淵公園)

17日(月)イースター礼拝・聖餐式

(対面礼拝再開)

25日(月)誕生会・相談会

●2022年5月
10日(火)園芸用品買い出し

12日(木)スタッフ会

13日(金)トイレ換気扇修理

16日(月)居室残置荷物の廃棄

17日(火)会計監査(ホール)

19日(木)A・B棟エレベーター点検

24日(火)曾澤とき江師入荘面談

体 験入荘

26日(木)昇天日、運営委員会

(富士見町教会)

30日(月)相談会(誕生会なし)

●2022年6月
6日(月)池田師居室の清掃実施

8日(水)スタッフ会

A棟エアコン工事

12日(日)母の日来訪(河辺伝道所)

13日(月)ドライブ&お散歩

(しよぶ公園)

21日(火)星野文字職員入職

26日(日)災害情報伝達訓練

27日(月)誕生会・相談会

●2022年7月
1日(金)ガス設置点検

4日(月)エアコン清掃

6日(水)曾澤とき江師入荘

8日(金)懇談会取材(広報小委員

会)

11日(月)エアコン清掃

12日(火)庭手入れ(梅寿園)

13日(水)防災設備点検(野村防災)

14日(木)スタッフ会

19日(火)食堂ワックスがけ

20日(水)井上医院来診

25日(月)誕生会・相談会

莊の主日礼拝は、主の復活を記念するイースター礼拝(4月17日)から、対面礼拝を再開し聖餐式も執り行うことができたことは、万感の思いに満たされました。

新型コロナウイルスの感染状況も注視しつつ、少しずつこれまでの日常を取り戻していかれることを心から願っています。今後とも、にじのい信愛荘の事をお祈りお支えいただけますよう、よろしくお願いたします。

みなさまと直接お目にかかれる日を、心から楽しみにしております。

■ スタッフ・自己紹介



看護師

星野 文子

(おぎん台キリスト教会)

青梅は自然豊かで濃厚な方が多く、住むのに良いところ。また昔ながらの風習や考え方も大事にしている、そのような青梅で私は長く暮らしています。

新たな仕事を求めていた時に「にじのいえ信愛荘」に導かれました。6月より働かせていただき、職員の皆さんに指導を受けながら仕事を覚えていくところ。です。

荘員の方々が安心して生活できますよう祈りつつ、仕事をしたいと思っています。

▼募金小委員会よりご案内

歌舞伎&落語コラボ忠臣蔵

・落語 春風亭小朝
・歌舞伎 「仮名手本忠臣蔵」

中村芝翫 ほか

・場所 国立劇場

・日程 11月5日(土) 昼

11月14日(月) 昼

・料金 未定 詳細は松田迄

03-37118-11870)

「にじのいえ信愛荘」

ご入荘へご案内

緑豊かな大自然に恵まれた東京郊外の青梅市に建つ「にじのいえ信愛荘」には、長く伝道牧会に尽くされた隠退教師とパートナーの皆様が、神の家族として祈りに満ちた生活をしておられます。毎朝の礼拝と食事を共にする以外は、各自お部屋で、また散歩や、ガーデニングなど自由にお過ごしです。

相変わらずのコロナ禍の現在、荘員も懸命に感染対策に取り組んでおられます。また、以前のような教区、支区や教会からの訪問などの交流は、コロナ禍の収束まで控えている状況です。

この荘は自立型の施設のため、入荘の際、自立基準の判定がありますので、是非早い段階のご相談をお勧めします。荘費の件も昨年度より、基準荘費(A棟一人6万5千円、B棟7万円、部屋代、食事代含む)と、それに見合う基準収入を定め、荘員の収入に応じて、荘費を増減する制度が出来ました。ご相談、ご連絡をお待ちしています。

維持献金と

クリスマス献金のお願い

「にじのいえ信愛荘」のため、皆様のご理解とご支援をいただき厚く御礼申し上げます。

毎年おこなってきたチャリティコンサートも開催できなくなつて3年目を迎えます。全国の教会と皆様に、維持献金の一層のご支援をお願いいたします。

また、今回も「青梅のにじ」は年1回の発行のため、早い時期からのお願いとなりますが、クリスマス献金も心よりご協力をお願い致します。

○事務局には振替用紙と専用の献金袋(個人)を用意していますので、ご利用の上、教会でまとめてご送金ください。

○献金者の中で、ご召天、転居、転会、中止の場合や、献金額等の不審点がありましたら、ご面倒でも、ご連絡(メールも可)ください。

振替口座番号

001200131358467

加入者 にじのいえ信愛荘

TEL 0428 (22) 2283

FAX 0428 (22) 2317

Eメール

nijinotesinaiiso@wish.ocn.ne.jp

■ パンフレットの案内

入荘案内のパンフレットを新しく作成しました。今回「青梅のにじ」と同封して皆様にお届けします。

尚、ご希望の方は事務局までご連絡ください。

■お詫び・訂正

事務局にて「献金報告」と「青梅のにじ」を別々に送付と誤報申し上げた諸教会にお詫びして訂正いたします。



第23号を全国の教会、学校、読者の皆様にお届けします。

今回2年半振りに、「青梅のにじ」取材のため編集の3人が荘を訪問し、時折の美しい鶯の声に聞き惚れながら、皆様との再会を果たし感謝でした。
(成松三千子)

編集委員会

長 成松三千子(柿ノ木坂教会)

尾野 明子(王子教会)

岸 俊彦師(経堂北教会)

黒沢 咲子(九段教会)

阪口 和美(水戸教会)

鈴木 功男(目白教会)

印刷 株式会社シャローム